

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

| | | |
|-------------------------|-----|-------|
| 所属学部 学科 | 職位 | 氏 名 |
| 教育学部 子ども発達学科 | 教授 | 伊藤 龍仁 |
| 最終学歴 | 学 位 | 専門分野 |
| 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了 | 修士 | 社会的養護 |

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という本学の建学の精神、並びに、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために、子ども家庭福祉分野の専門性と経験を活かしながら、保育・児童福祉現場に求められる人材の育成を念頭に教育活動にあたる。

【目標】

本学の建学の精神を具現化するため、従来の対面授業にオンライン授業の成果を融合した質の高い教育プログラムを開発することが目標である。

【方針】

対面授業に効果的なオンライン授業を取り入れながら教育効果を高めた授業を実施する。

【計画（方法）】

- ①保育実習指導系科目は、対面での指導を基本として Microsoft Teams によるオンライン授業を取り入れて実施する。また、2年生の事前指導で取り組ませてきたサービス・ラーニング活動については昨年度の実績よりも時間数を増加して実施する。
- ②専門演習は、対面指導に加えて Microsoft Teams によるオンライン指導を組み合わせながら実施する。専門演習Ⅰ・Ⅱはフィールドワークとグループ指導、専門演習Ⅲ・Ⅳは前期から卒業論文作成に向けた課題に取り組ませたい。
- ③講義科目は、対面授業を中心としながら Microsoft Teams によるリアルタイム動画配信とアウトプット・ノートの作成を提出課題とする形態の中に、小テスト並びにディスカッションを取り入れた対話型授業を実施する。

【担当科目】

（前期）

社会福祉概論、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ、保育実習事前指導ⅠB

（後期）

子ども家庭福祉、社会的養護、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ、卒業研究、保育実習ⅠB、保育実習Ⅲ、保育実習Ⅲ事前事後指導、保育実習指導ⅠB

○教育方法の実践

対面授業を中心としながら Microsoft Teams によるオンライン授業を組み合わせながら授業を実践した。また、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら、双方向的・対話的授業実践を意識して取り組んだ。講義系授業においてはアウトプット・ノートの作成を提出課題と小テストを実施した。

○作成した教科書・教材

オンデマンド配信動画と対面授業の補足説明用動画を多数編集・作成した。また、毎回授業におけるスライド資料と補足資料、アウトプット・ノートの原紙等を作成して学生に開示した。「社会福祉概論」「子ども家庭福祉」「社会的養護」の次年度改訂版テキストを執筆した。

○自己評価

概ね計画通りの教育活動に取り組み、一定の教育成果につながった。しかし、特に実習教育に関わるサービス・ラーニングが不十分であったが、今年度の施設実習への悪影響は限定的で大きな問題にはつながらなかった。今年度から受け持った「総合演習」で取り組んだ平和公園におけるネイチャーゲームは保育士・教師を目指す学生に必要な自然体験やスキル向上につながる可能性を見出すことができた。

II 研究活動

○研究課題

- (1)ファミリーホームの現状と課題に関する研究
- (2)アジアにおける社会的養護の国際比較研究

○目標・計画

【目標】

「オンリーワンを一人にひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために独自の研究活動に取り組む。研究課題それぞれの成果をまとめ、本学紀要並びに学会誌等への掲載を目指す。

【計画】

研究課題(1)は、名古屋市ファミリーホーム協議会、並びに、全国ブロック協議会活動に参加観察しながら情報収集を継続し、その成果を本学紀要論文等にまとめて公表する。

研究課題(2)は、これまでの調査を踏まえ、東南アジアまたは南アジアにおいて第2次調査に取り組み、アジア圏の要保護児童と各国の社会的養護に関する調査を実施する計画である。

○2016年4月から2024年3月の研究実績（特許等含む）

（著書）

- ・丸岡利則・伊藤龍仁・大勝志津穂・鈴木恵三・尚璽華・孫 穎・呂 洋・野口泰司・西尾敦史・渡辺弥生・王亜婷・馬利中・劉衛東・金良泰・上條憲二（2022）愛知東邦大学地域創造研究所編著，地域創造研究叢書（35）『少子高齢社会のヒューマンサービス』2-22，唯学書房。
- ・伊藤龍仁・川名はつ子・佐賀豪・若狭一廣・前川知洋・栗元貴司・若狭佐和子（2021）社会的養護とファミリーホーム編集委員会編『ファミリーホーム開設運営マニュアル』，創英社。
- ・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村譲（2020）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉』109-127，みらい。
- ・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵（2020）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護 I』10-28，みらい。
- ・安形元信・天池洋介・荒井和樹・池戸裕子・石垣儀郎・伊藤龍仁・岩田正人・小尾康友・加久保亮

平・加藤潤・加藤智功・葛谷潔昭・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・関貴教・谷村和秀・隣谷正範・長棟李奈・橋本達昌・早川悟司・藤田哲也・藤林清仁・堀江美希・堀場純矢・水野和代・武藤敦士・武藤佑太・安田華子・山本真知子・芳川龍郎・吉村美由紀・吉村讓 (2019)

喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブック 社会的養護Ⅱ』188-189, みらい.

- ・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・柿原聖治・梶浦恭子・新實広記・矢内淑子 (2020) サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第6版』, P17, 愛知東邦大学教育学部子ども発達学科.
- ・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・伊藤数馬・梶浦恭子・新實広記・橋村晴美 (2019) サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第5版』, P17, 愛知東邦大学教育学部子ども発達学科.
- ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原聖治・伊藤数馬 (2019) 愛知東邦大学地域創造研究所編『地域創造研究業書 No. 30 教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』, 73-74, 唯学書房.
- ・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村讓 (2017) 喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブック 児童家庭福祉』106-123, みらい.
- ・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵 (2017) 喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブック 社会的養護』10-28, みらい.
- ・丹羽咲江・萬屋育子・伊藤龍仁・明石雅世・涌井規子・谷口由希子・多久島睦美・加藤久美子・賀屋哲男・竹村万知子・小島祥美・本岡恵・小島俊樹・幸伊知郎・安藤ふみ・田中弘美・荒井和樹・加藤正志・小池田忠・岡本祥浩・重原惇子・渡邊ゆりか・藤田榮史 (2016) 特定非営利法人子ども&まちネット編, 藤田榮史監修『なごや子ども貧困白書』20-24, 風媒社.
- ・藤園秀信・打保由佳・川田誉音・飯塚哲男・伊藤龍仁・榎原直美・大井智香子・加藤大輔・五味保教・杉浦真生・須藤昌寛・高橋洋介・谷口真由美・福嶋正人・福田洋一郎・藤森一浩・山口みほ・吉田祐一郎 (2016) 中部学院大学通信教育部監修, 藤園秀彦・打保由佳・川田誉音編『社会福祉相談援助演習 ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ』156-162, みらい.

(学術論文)

- ・伊藤龍仁 (2022) 「日本における「子ども虐待」とその家族的背景」(2022) 伊藤龍仁, 『少子高齢社会のヒューマンサービス』地域創造研究所蔵書(35)2-22, 唯学書房.
- ・伊藤龍仁 (2022) 「ファミリーホームの限界と可能性を問うために一問題提起」『社会的養護とファミリーホーム』(12) 12-19, 創英社.
- ・若狭一廣・伊藤龍仁・佐賀豪・前川和洋・川名はつ子(2021 予定) 「緊急座談会 新型コロナウイルス禍でのファミリーホーム」『社会的養護とファミリーホーム』(11) 49-57, 創英社.
- ・伊藤龍仁 (2018) 「ファミリーホームの人材確保と育成について」『子どもと福祉』(11) 26-29, 明石出版.
- ・伊藤龍仁 (2018) 「新ビジョンよ何処へ行く」『社会的養護とファミリーホーム』(8) 32-40, 創英社.
- ・浅井彰子・伊藤龍仁 (2017) 「乳幼児の言葉の発達と絵本の楽しみ〜「親子で絵本を楽しむ会」の取り組みを通して〜」『東邦学誌』(46-2), 113-125, 愛知東邦大学.

- ・伊藤龍仁 (2016) 「特別企画 ファミリーホームと地域小規模児童養護施設—どこがどう違うのか—
まとめにかえて—ファミリーホームとは何かを考えるために」『社会的養護とファミリーホーム』
(7) 118-121, 福村出版

(学会発表)

- ・伊藤龍仁 (2022年9月6日) 「ファミリーホームとは何か？」(動画) 第16回ファミリーホーム全国研究大会オンデマンド特別配信.
 - ・伊藤龍仁 (2019年6月29日) 「「積養護論」を振り返りながら子どもの養育と自立を考える」第48回『全国児童養護問題研究会全国大会(岐阜大会)(岐阜聖徳学園大学)』シンポジウム「子どもの最善の利益を実現する社会的養護」報告.
- ・伊藤龍仁 (2019年2月28日) 「日本の少子化・子どもの貧困・虐待問題」『少子高齢社会における日中の子どもの健康と福祉のこれからを考える』愛知東邦大学地域創造研究所・復旦大学人口研究所共催研究例会報告(中華人民共和国, 上海復旦大学).
- ・伊藤龍仁 (2018年10月6日) 「家庭養護における「公」と「私」の相互関係とバランス—ファミリーホームの措置委託と措置解除に着目して—」日本福祉大学大学院博士課程論文構想発表会.
- ・伊藤龍仁 (2016年2月27日) 「ファミリーホームの自立支援計画」『2015(平成27)年度ファミリーホーム東海・北陸・静岡ブロック協議会研修会(愛知東邦大学)』実践報告.
- ・伊藤龍仁 (2016年2月18日) 「家庭養護寮の歴史的再評価—日本における小集団家庭的養護の歴史」『日本福祉大学大学院社会福祉理論史研究会2月定例会(日本福祉大学)』研究報告.

(特許)

(その他)

- ・「平成30年11月 仙台市立小学校2年生女子児童の死亡事案 調査報告書(答申) 令和4年12月6日」(2022) 仙台市いじめ問題専門委員会.
- ・伊藤龍仁(2022)「2022子どもアドボケイト専門講座 訪問前研修報告書 ファミリーホームとは」一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA.
- ・伊藤龍仁(2019年3月23日)「里親制度の可能性を考える—ファミリーホームの実践をとおして—」なくそう!子どもの貧困ネットワークあいち連続学習会(31)(名城大学ナゴヤドーム前キャンパス)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

○所属学会

- ・社会事業史学会
- ・東海社会学会
- ・日本福祉大学社会福祉学会
- ・日本社会福祉学会
- ・全国児童養護問題研究会
- ・日本ファミリーホーム協議会

○自己評価

今年度は体調不良により計画した研究課題に取り組むことができなかった。研究計画(1)「ファミリーホームの研究」はファミリーホームと協議会組織への参与観察を継続しているものの、研究計画(2)「アジアにおける社会的養護の国際比較研究」については進捗していない。論文等の執筆もできな

った。その一方で、宮崎県北部地域における少子化の現状と子ども計画策定に関する研究に着手することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という建学の精神及びブランド・コンセプトを具現化するため、与えられた職責を「真面目」に全うすることを大学運営についての目標とする。

【計画】

教職支援センターの下で幼小保学部の部会長としての職責を果たす。また、学部執行部の役を降りた後も学部で与えられた役割に対して責任を果たすとともに、オープンキャンパス模擬授業担当者として学生募集状況の改善に貢献したい。

○学内委員等

幼小保課程部会長

教職支援センター委員

教養教育委員会委員

○自己評価

今年度の大学運営に関しては概ね目標を達成し職責を全うできた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

専門分野を生かした社会貢献活動に積極的に取り組むことにより、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を掲げる本学の社会的な認知・信用の向上に貢献することが目標である。

【計画】

- ① 名古屋市ファミリーホーム協議会会長・ファミリーホーム事業者として名古屋市の児童福祉事業に貢献する。
- ② 日本ファミリーホーム協議会の東海北陸静岡ブロック担当理事として社会貢献する。
- ③ 日進市子ども施策推進委員・子どもの権利擁護委員として日進市の子育て支援に貢献する。
- ④ 日本ファミリーホーム協議会「社会的養護とファミリーホーム」誌編集企画委員に取り組む。
- ⑤ 社会福祉法人「桜友会」評議員として法人並びに福祉施設の運営に協力する。
- ⑥ 名古屋市児童福祉・子育て支援事業講習会、愛知県児童厚生員研修会、フォスタリング研修会等の講師として社会貢献する。
- ⑦ 名古屋市里親委託等推進委員会委員として名古屋市の児童福祉事業に貢献する。

○学会活動等

日本ファミリーホーム協議会東海北陸静岡ブロック協議会理事として日本ファミリーホーム協議会全国運営委員会に参加した他、3年ぶりに対面での研修会を企画して実施した。

○地域連携・社会貢献等

日本ファミリーホーム協議会東海北陸静岡ブロック理事、名古屋市ファミリーホーム協議会会長、日進市子ども施策推進委員、日進市子どもの権利擁護委員、名古屋市里親委託等推進委員会委員、名古屋市のびのびサポート子育て支援事業（ファミリーサポートセンター事業）提供会員向け研修会講

師、愛知県児童厚生員研修会講師、及び、社会福祉法人桜友会評議員としての地域・社会貢献を行った。この他、第2期名古屋市社会的養育推進計画会議に委員として参加した。

○自己評価

今年度については体調不良の中で、一部の行政委員会や評議委員会に欠席することもあったが、概ね目標を達成できたと思う。

V その他の特記事項（学会研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

全国里親会会長表彰、第5回愛知県社会福祉大会愛知県知事感謝状、全国保育士養成協議会教員表彰を受賞した。

VI 総括

今年度は、教育活動と大学運営への支障はなかったものの、体調不良から研究活動に取り組めず、一部の社会貢献活動にも影響が生じた。次年度は健康管理に努めながら無理のない計画を立案して取り組みたい。

以 上